今、何の病気が流行しているか！

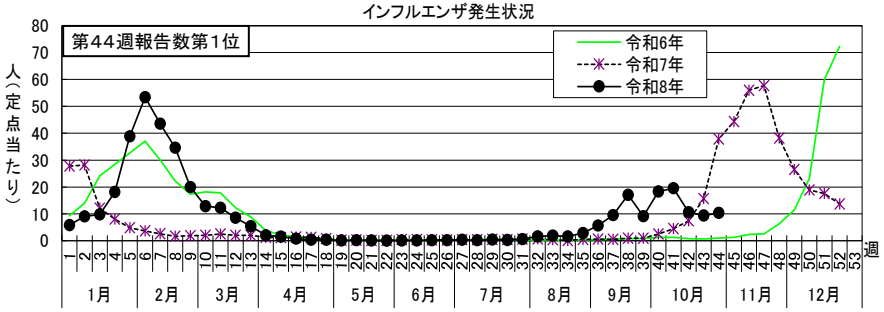
【感染症発生動向調査事業から】

令和８年１０月２６日（月）～令和８年１１月１日（日）〔令和８年第４４週〕の感染症発生状況

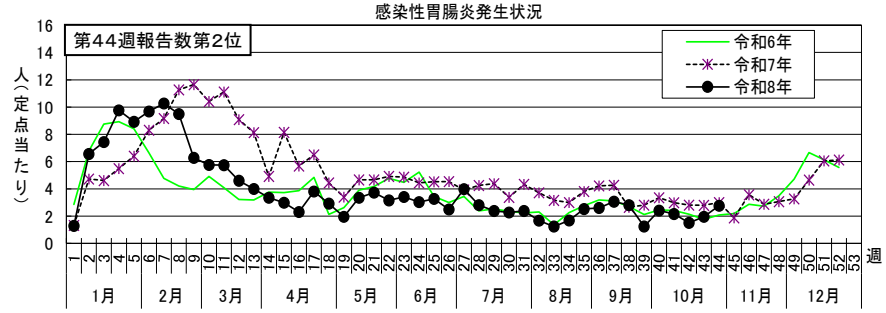
第４４週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、１）インフルエンザ　２）感染性胃腸炎　３）Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は１０．３９人と前週（９．４０人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は２．７６人と前週（１．９５人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は１．１６人と前週（１．３２人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



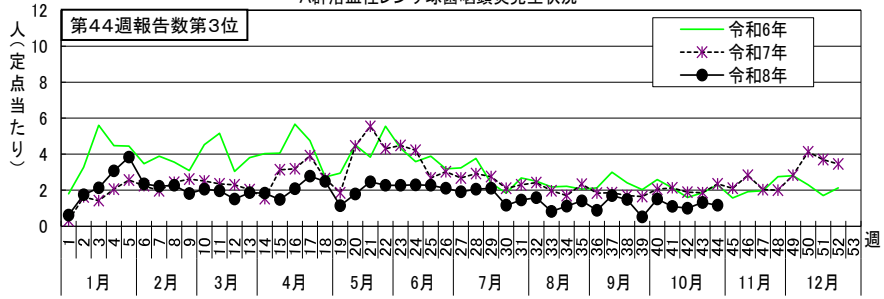
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

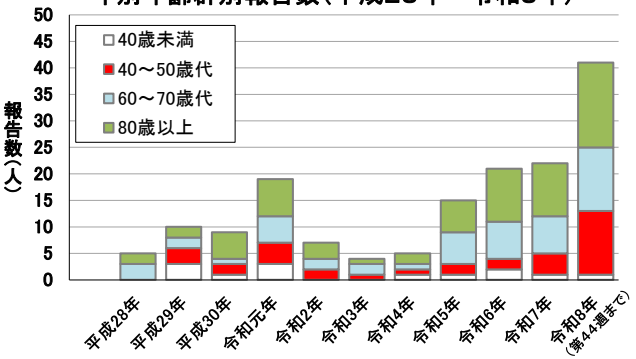


過去最多の報告数！～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性レンサ球菌を原因とする細菌感染症です。川崎市における報告数は令和８年に急増し、第４４週（１０月２６日～１１月１日）までに計４１件と、現在の届出基準となった平成１８年以降最多となりました。今年は年齢群によらず報告数が増加しており、特に毎年０～４件で推移していた４０～５０歳代の報告数が１２件となっています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突然の発熱や四肢の痛み等の症状がみられた後、急速に進行して多臓器不全等を呈し、発症から数日で死亡する場合もあります。発症早期の抗菌薬治療が有効ですので、発熱を伴う四肢の痛みや腫れ等の症状がみられた際は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の年別年齢群別報告数（平成28年～令和8年）



劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

【病原体】
溶血性レンサ球菌（主にＡ群、Ｂ群、Ｃ群、Ｇ群）

【感染経路】
創傷感染、飛沫・飛沫核感染、接触感染等

【主な症状】



●初期症状
四肢の痛み・腫れ、発熱、血圧低下等

●進行とともに出現する重篤な症状
軟部組織壊死（皮下組織細胞の壊死）、
急性腎不全、多臓器不全、ショック等

【致命率】
３０%～４０%

早期発見・早期治療が重要です！

川崎市 KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策課・
各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）０４４－２７６－８２５０　令和８年１１月４日作成